

天桂傳尊
直筆艸稿 『正法眼藏辨注』の翻刻（三）

河 村 孝 道
小 坂 機 融

八面なるが故ニ、大小、権実、通別、偏円等ノ名目ノ刻意ニアラズ。故云、無量ノ大海、無量ノ須弥、無量ノ国土、無量ノ諸法ニ現成セリ。是則、諸夢已前ノ夢中説夢なり。

諸夢ト云ハ、法花五ノ巻安樂行品ノ末ニ、五事、七事ニ依テ夢アルゝ明ス。私記ノ八ノ卅六ウ具〔吳〕東春文句ノ八ノ三ノ卅一ウニモ詳ナリ、可見。尚又、玄光青砥「」事ニ出スマ、ニ辨スペシ。夢ノヲ、可参在、アゲテヨク。故ニ、偏界弥露たる夢なり。この夢、すなはち明くなる百艸なり。於茲諸人者、疑着するの正当なり。紛糾として曉了ナラザル正当ナリ。

サテ、此時、夢草中ノ説草等なり。此草ノ字ハ、百草ノ草ノ字ノ處、是仏祖國なり、仏祖會なり。仏國、仏會、祖道祖席ハ、證上^{シテ}而證夢中説夢ナレバ、賢首天台如キ教人ハ、五時八教、別圓始終等ノ判釈ノ及ブ処ニ非ズ。如是ノ道理、祖門中、此ノ道取、説取にあひながら、今時瞎禿子等、夢中説夢ノ仏會にあらずとすべからず、是則真実仏轉法輪なり。この法輪、十方

諸仏諸祖ノ出興之道、夫朕兆已前なる故ニ、教家ノ旧窠裡の所論、藏通別円、頓漸、大小等ノ所論ニアラズ。依之、仏祖ノ邊際ニ仏向上等ノ功德あり。時劫ニかゝはれざる故ニ、壽者、命者、久遠塵点ノ長遠ニモアラズ、今日、出釈氏宮四十余年ノ頓息ニあらず。吾祖門中ノ仏法ハ、遙カニ凡界ノ測度ニあらざるべし。故ニ、法輪轉もまた朕兆已前の規矩なり。このゆへニ、大功不^レ賞、千古榜様、一乘円頓等ノ褒賞歎言を不要。是を夢中説夢とす。證中見證なるカ故に、夢中説夢なり。この夢中説夢ノ處、是仏祖國なり、仏祖會なり。仏國、仏會、祖道祖席ハ、證上^{シテ}而證夢中説夢ナレバ、賢首天台如キ教人ハ、五時八教、別圓始終等ノ判釈ノ及ブ処ニ非ズ。如是ノ道理、祖門中、此ノ道取、説取にあひながら、今時瞎禿子等、夢中説夢ノ仏會にあらずとすべからず、是則真実仏轉法輪なり。この法輪、十方

しかあれバ、仏道をならハざらんと擬する人ハ、トある文ハ疑し。誰か仏道をならハざらんと疑する者あらん。もし、一向外道ならんニハ、またこゝに□するニ及ざるべし。故ニ辨するに、しかあれバを、しかれどもト直して、仏法をならはざらん人の擬するハと、人ト云字、上ニありて穩カニ聞ゆるなり、言ロハ夢ニ然ナリ、ト錯ベからず。

しかあれども、仏法をならわざらん人の擬するハ、此ノ夢中説夢にあひながら、いたづらにあるまじき夢草の、あるにもあらぬをあらしむるを、夢中説夢といふならん、とおもひ、まどひにまどひをかさぬるがごとくにあらんとおもへり。しかにハあらず。たとい迷中又迷トイふとも、まどひのうへのまどひと道取せられゆく、道取の中の通宵の路ミチアルゴまさに功夫參究すべし。是故ニ、夢中説夢するハ諸仏なり。諸仏ト云ハ、風雨水火なり、徧世界、森罗万像、是諸仏ノ百福莊嚴相ト云ンがごとし。

この名号、かの名号ト云モ、万物、彼此、悉皆諸仏ノ名号なり、ト受持す。如是、夢中説夢するハ古仏なり。此夢中説夢ノ宝乗ニ乗メ、直至_ニ菩提(菩提)道場_ニなり。直至道場ハ、乗此宝乗中ニあるなり。夢曲夢直、把定放行、共ニ此夢中説夢ノ風流を逞_{タマシク}するなり。然モ、此段ノ文、率畧ニノ不易見。正当恁麼夢中説夢の法輪、或ハ大法輪界を轉ずること、無量無辺なりト。界ノ字ハ、海ノ字ナランカ。或ハ、一微塵にも轉ず。

其塵中轉法の消息、今古不休息_ニ。此道理、大ニまれ、小ニまれ、いづれの恁麼事を轉法するにも、夕トイ怨家ナルモ笑点頭するなり。こゝにあれ、かしこにあれ、いづれの処所にも恁麼事を轉法する、故ニ轉處風流なり。このゆへに、尽地皆薙地の無端なる轉妙法輪なり。こゝに、轉妙ニ二字入て、下ノ句ト對するなり。徧界皆不昧の因果なる諸仏無上なり。是以しるべし、諸仏の化道、及ハ万ノ説法蘊、共ニ無端に建化し、無端ニ住位せり。必シモ伝來の端由をもとむることなけれ。尽ク從這裡去なり、尽從這裡来なり。這裡是何所在ゾト參べし。是故ニ、葛藤をうへて轉々葛藤をまつぶ、皆無上_ニ菩_ニ提_ニの性相なり。菩_ニ提_ニの無上無端なるがごとく、衆生も無端なり、無上なり。煩惱(煩惱)ノ羅籠無端なりといへども、解脱も無端なり。如是公案現成なる則バ、放你三十棒ト云も、是見成公案の夢中説夢なり。

しかあればすなわち、無樹、不阴阳(陰陽)ノ地、喚不響ノ谷ト云モ、見成の夢中説夢なり。是人天ノ境界ニあらず、凡夫ノ測度ニあらず。夢の_ニ菩_ニ提_ニなる、誰カ疑着せん。此所疑着ノ所ニ管帶_{スル}アラザルが故ニ、誰カ認着するあらん。認着の所ニ轉得_{スル}ニあらざるが故ニ、此無上_ニ菩_ニ提_ニハ、無上_ニ菩_ニ提_ニなるが故ニ、夢ハ是夢といふ。此句、着眼して參究せる夢中あり、説夢あり。説夢あり、夢中あるなり。夢中ニあらざれば説夢なし、説夢ニあらざれば諸仏出中なし。説夢ニあらざれば諸仏なし、夢中にあらざれば諸仏出

世なし、轉妙法輪することなし。其法輪ハ、唯仏ト轉ズルなり、
与仏ト轉ズルなり、夢中説夢ト轉ずるなり。たゞまさに夢中説
夢ニ無上菩衆の諸仏諸祖あるのみなり。しかも尚、更ニ、法身

向上ノ事なり、即夢中説夢なり。茲ニ唯仏与仏の奉観あり、頭
目髓腦、身肉手足を愛惜する事あたわす。此無上菩ノために、
此身、愛惜せざる、是則賣金の人ハ須是賣金人なる。是を玄之
玄といひ、妙之妙といひ、證之證といひ、頭上ニ安頭ともいふ
なり。是則仏祖の行履なり。是を參学するに、多クハ頭をい
ふにハ、人の頭上とおもふのみなり。さらに毘盧の頂上とお
もわす。いはんや、明くたる百草頭とおもはんや。百草頭と
ハ、万像森羅ハ、百三千ノ頭々上をいわんためなり。

いはんや、頭齧をしらず、是什麼ノ頭齧ゾ。餘所見するな。
今有一事問你等、若道這箇是、即頭上安頭、若道這箇不是、
即斬頭求活ト。愚人、これをきゝて、剩法をいましむる言語と
おもふ。あるべからずといはカ〔はカ〕んとてハ、いかでか頭上安頭す
ることあらんといふを、よのつねのならひとせり。まことにそ
れ、あやまらざるか、あやまりなり。

説と現成する、凡聖ともにもちひる相違あらずとある文、かな
らず脱誤あり。説ノ一字にてハ、義、通ゼズ。辨するに、夢中
説夢、の四字ならん。言ロハ、今此夢中説夢ト現成する道理ハ、
凡聖ともに用るに相違あらず。このゆへに、凡聖ともに夢中

説夢なる。其所以ハ、きのふにても、生ずべし、今日にても
長ずべしとハ、きのふにても、今日にても、其道理、生長すべ
し。

しるべし、きのふ凡夫地の夢中説夢ハ、夢中説夢を夢中説夢と
分別ニ認着しきたる。今日の諸聖位の夢中説夢ハ、夢中説夢
を夢中説夢と參する、即是、值仏ノ慶快なり。

此處不易見。此様ノ語句、古今人師共、夢ニモ未見道理なり。
諸人者、容易におもふべからず。

かなしむべし、仏祖明々たる百草の、夢あきらかなること、
百千の日月よりも明かなりといへども、生盲の見ざること、
あわれむべし。いわゆる、頭上安頭といふ其頭ハ、すなわち百
草頭なり。百草頭ハ、前に辨ずることく、千差万品の諸法の境
界をいわんがごとし。故ニ、下ニ云、千種頭なり、万般頭なり、
通身頭なり、全世界不曾藏頭なり、尽十方界頭なり、一句合頭
なり、百尺竿頭なり。安も上も頭々なると參ずべし、究すべ
し。此古仏ノ語句、你諸人、百千万劫ニも不可得聞なる「
」諦觀セヨ。古代ニも未曾有ナリ。況今世ノ學文字ノ僧僧、
馬耳當風、牛角蜂蟹のごとくなるべし。如是ノ妙言、四百年
來、其沙汰なきこと、老僧、徹骨取心、悲歎するニ、不知所可
言耳。頭々ノ字、ものごと、と和訓スルゾ。

しかあれば、一切諸仏及諸仏阿耨多羅三藐三菩提、皆從此經出
も、頭上安頭しきたる夢中説夢なり。此經、すなわち夢中説夢

するに、阿耨菴の、諸仏を出興せしむ。菴の諸仏、さらに此經を説さだまれる、夢中説夢なり。夢因くらからざれば、夢果不昧なり。千槌ツイ万槌ツイハ、一当半當なり。かくのことくなるによりて、恁麼事なる夢中説夢あり、恁麼人なる夢中説夢あり、不恁麼事なる夢中説夢あり、不恁麼人なる夢中説夢ありとしるべし。しられ来る道理、顯赫なり。辨するに、一槌ハ千當万當なり。千槌ツイ、万槌するハ、一当半當なるなり。

しられ来る道理顯赫なるハ、いわゆる、ひねもす茶話飯語の夢中説夢即夢中説夢なり。このゆへに、古仏いはく、我今為你夢中説夢、三世諸仏也夢中説夢、六代祖師也夢中説夢、此道、あきらめ參ずべし。いはゆる、拈花珣目即夢中説夢なり、礼拜得體即夢中説夢なり。大凡、道得一句、不會不識、夢中説夢なり。千手千眼、用許多作麼なるがゆへに、見色見声、聞色聞声の功德、具足せり。現身なる夢中説夢あり、説夢説法蘊なる夢中説夢あり、把定放行なる夢中説あり。直指ハ、説夢なり、的當ハ、説夢なり。把定しても放行しても、平當ノ秤子を学すべし。学得するに、かならず目櫻鉢兩あらはれて夢中ニ説夢し出るなり。鉢兩を論ぜず、平にいたらざれば、平の現成なし。平を得るに、平を見るなり。すでに平を得る処、物によらず、秤によらず、櫻によらず、空ニかゝれりといへども、平を得ざれば平をみずと參究すべし。自ラ空に〔空に〕かゝれるがごとく、物を接取して空に遊化せしむる、夢中説

夢なり。空裏に平を現身す。辨曰、空ニかゝれる、空に遊化、空裡に平を現身すト云心口、空におるて高下・曲直ナキヲ可知。

此空ノ平ハ、秤子の大道なり。空をかけ、物をかくる、皆空の秤子によるべし。たとい空なりとも、色なりとも、平ノ秤子にあふ、是夢中ノ説夢なり。心仏及衆生、皆悉解脱ノ夢中説夢ニあらずといふことなし。夢、これ尽大地なり、尽大地ハ平なり。何をか平といふや。老僧、常にいふことく、山ハ山にして平ラニ、水ハ水にして平ラニ、人ハ人、天ハ天、地ハ地、僧俗男女ハ僧俗男女、冤（煩惱）ハ冤、菴（菩提）ハ菴なるか平等ならざる物あるや。此處、參禪ノ要稅なり。審細參究せよ、丸のみすべからず。今時ノ学者、軽ニうわの空ラニ馳走する故ニ、這裡ニ差過するなり。

是故ニ、你が日用、回頭轉脳の無窮尽、即是夢裡ニ證夢する、信受奉行なり。回頭轉脳ハ、一念称じむく処ヲ云ゾ。然共、日用左右、向背ニ回頭轉脳するノ外ニ、別ニ有ルニハ非ザルナリ。釈迦牟尼仏言、諸仏身金色、百福相莊嚴、聞法為人説、常有是好夢、又夢作國王、捨宮殿眷屬、及上妙五欲、行詣於道場、在菴樹下、而處師子座、求道過七日、得諸仏之智、成無上道已、起而轉法輪、為四衆説法、遙千万億劫、説無漏妙法、度無量衆生、後當人炎（涅槃）、如烟尽火滅、若後惡世中、説是第一法、是人得大利、如上諸功德。是則法花經五

卷安樂行品末偈文也。天台文句八之三卅一丁ウ、私記八ノ卅六ウ東春ニ、夢ヲ出、可見。

而今の仏説を參學して、諸仏の仏會を究尽すべし。是譬喻ニあらず。諸仏ノ妙法ハ、唯仏与仏なるゆヘニ、夢覺の諸法、ともに實相なり。覺中の發心・修行・菴(菩提)・炎(涅槃)あり。夢裡の發心、修行、菴、炎ありト。此段ノ語句、千歳一遇ノ妙法也。古今ノ諸祖、開口不得ノ處、慎拝聽せよ。

永平古仏ハ、已ニ久我ノ家胤ニ、在家不鄙賤。將夫正法眼藏ノ祖師として、宗乘ノ知見、絕代希有ナル古仏ナリケルニ、其派下、四百年來、今日ノアリサマ、他人ノ口実ニ、曹洞土民、ト嘲弄セラレシ、ナンノ所為ゾヤ、疑念晨昏不曉ノミ。法花ニ於テハ、天台智者、吳朝ニ在テ齊肩ノ法師ナキ、指目ノ指見する處ナリトイヘモ、此法花ノ文ニ於テ、古仏ノ如ク勘破シ出ス、不能。漸ク其ノ、若於夢中但見妙事、ノ文ノ下ノ解釈ニ云、

持經現感此相、當知過去久已成就、今籍縁而發_{スルノミ}耳。又有成仏因果等相、並是後報、故於夢中見未來後報之相、百千万劫事、在_リ一念夢中、用表_{テス}妙法不可思議、一中無量、々々中_一、是相前_ニ現後_ニ當_レ剋_レ果、從_ニ初發心乃至妙覺八相成仏、皆如來莊嚴而自莊嚴、即忍辱報也。此下_ニ荆溪記云、能行_ニ此行_ニ兼_ニ弘_ニ經力、化功歸_ニ己、果相先彰、故使_ニ大士剎那夢、逾_ニ億世、表_テ一生弘經功超_ニ累劫_ニト。

円理を以て釈すといへども、漸ク此見解ノミ。いまだ三世前後ノ因果、一_ト與無量_ト所見を不亡。此夢中、但見妙事を弘經ノ功德ノ表示トヲモヘリ。いかでか古仏ノ夢覺、一実ノ知見ニ及_ニヤ。古仏所謂、覺中の發心・修行・菴・炎あり、夢中ノ發心・修行・菴・炎あり、とのたまふ道理、一物相似ノ物似長老ノ見解ニテ見ユル処ニハアラズ。此心ハ、仏、今日、八相成道、或久遠実成、或本來成仏、不涉修證、或母胎ニ於テ八相成道了ル。天台ハ初住ニ八相成道アリト云。李長者ハ、一念相應、一念成仏、不_レ用_ニ時劫久近_ニ等ト云。如是ノ所見ノ差別を、或ハ円頓一條ト云、或ハ三乘所見ノ漸教等ト、種々ニ判釈スル。是を、皆覺中の發心・修行・菴・炎ト見ル、其人ニアリ。又、上件ノ道理ヲ、一一夢中ノ説夢、但見妙事ノ大夢ナリ、ト見ル。是、吾祖門家屋裡ノ巴鼻ナリ。賢首・天台等ノ判位ノ至ル処ニアラザルゾ。如是ノ妙言、今時ハ沙汰_ニ及ズ。上古ノ諸祖師ニモ未曾有ナリ。是以慎_{ツシメテ}正法眼藏を拝覽し、參究せよ。お飯ノ正法眼ナランヤ。面皮厚_ニ兌千枚ゾ、可耻_ニ。

夢覺おの_ニ、實相なり、大小せず、勝劣せず。又、夢作國王等の前後の道着を見聞する古今おもわくハ、說是第一法のちからによりて、夜のかくのごとくなると錯セリ。かくのごとく會取するハ、いまだ仏説を曉了せざるなり。覺夢、元より一如なり、實相なり。

諸人者、夢といふと、覺といふとを、しれりや。大惠、中峰ナドガ、寤寐合一ノコヲ利口ゲ云ケル。いまだ夢覚実相ノ談を聞ざる故ニ。楞嚴ニモ、寤寐合一ノ説アリトイヘども、いまだ如來の密旨を知ル者ノナシ。獨庵、夢ノコヲ云ヘルハ、儒ノ見解。今此ノ覺夢実相ノ談ハ不知ニ。

抑実相トハ、ナニヲ云ヤ。大命（論）ニ、実相者無相也トいへり。是にても未尽なり。尽地尽界、森罗（羅）万像、諸仏衆生、悉皆自心、実相、無相ノ相故ニ、夢も実相なり、覺も実相なり、唯此一事、実相にして、餘ノ二三ハ、則非真なり。是を妙難思ノ法花トモいふ。其自心^{ナル}者、又是什麼物^カ恁麼し來耶。

是を大小すべき、勝劣すべきか。如是の玄旨を知らざる、近代宗旨知れずの願人出來て、禪門諸祖ノ語ハ終教ニ過ぬ劣なり、円理ニ叶ヌなどいへば、吾門ノ瞎奴子等、頭を低テ是を信ズ。不便ノ至りなるべし。若其を是とおもはゞ、早ク願人ノ第（弟）子トなるべきトなり。是等を、蝙蝠鳥鼠、袈裟下ノ賊ト云ベシ。

仏法ハ、たとい譬喻なりとも、実相なるべし。すでに譬喻にあらず、夢作、これ仏法の真実なり。釈迦牟尼仏、及一切諸仏諸祖、みな夢中に發心・修行し、成等正覺するなり。しかかる故ニ、而今沙婆世界の一化の仏道、即夢作なり。七日といふハ、得仏智の量なり。或ハ三祇劫^{モトモ}、一剎那際^{モトモ}、一念時頃モ、一生、二生、三生、當得モ、其量、其時アルが故なり。

轉法輪度衆生、すでに逕（逕）千万億劫といふ、夢中の消息、

たどるべからず。驀直ニ去^{サレ}。

諸仏身金色、百福相莊嚴、聞法為人説、常有是好夢といふ。明カニ知ヌ、好夢ハ諸仏なり、と證明セラるゝ、妙覺なり。常有の如來道あり、何ゾ釈尊百年ノ夢のミならんや。為人説ハ、諸仏現身なり、聞法ハ眼処ノ聞声なり、心処ノ聞声なり、旧（寒）巢處ノ聞耳なり。是ハ、此篇ノ初メニアル旧巢ノ字ナラン。則教乘ノ聞法をいふなり。又、空劫已前ノ聞声なり。然モニ夢中説夢ノ法を聞^キなり。諸仏身金色、百福相莊嚴といふ。好夢ハ諸仏身なりといふこと、直至如今更不疑なり。覺中に仏化不^レ息道理ありといへども、仏祖現成ノ道理、必ス夢作夢中なり。是、吾宗乘中ノ事、筭（算）沙學文字ノ教人、禪者ノ非所知なり。於茲莫謗仏法の參学すべし、莫傍仏法の參学する時、而今如來道、忽チニ現成するなり。

ナニサマ獨庵など、正法眼藏ノ書、真偽如何と隨徒ノ者、疑問せしを、不知^ク、いへりときこへし、最^{モットモ}宜なり。不知^ト為^レ不知ト、是好語也。

〈『夢中説夢』卷了〉

仏向上事 第二十一

アラズ、與ルニアラズ、奪フニアラズ。是故ニ語話現成ノ時、
是仏向上ノ事なり。

高祖筠州洞山悟本禪師ハ、潭州雲巖山無住大師の親嫡嗣なり、
如來より三十八位ノ祖なり。自己より向上三十八位の祖あり。
大師有時示衆云、体得仏向上事、方有些子語話分、僧問、如
何是語話、大師曰、語話時闇黎不聞、僧曰、和尚還聞否。
大師云、待ト我不_ニ語話_ヲ時_上即聞。是古仏ノ矣也。此公案、
如_ニ傳灯_ニ也。會元_{ニハ}末語有_ト我不_ニ語話_ヲ時_節聞_ト其時洞山聞
也。今此我字_上、有_ニ待字_一。則此僧聞也。待ト我不_ニ語話_ヲ時_上
即聞也。

いまいふ處の仏向上事の道得、大師その本祖なり。自餘の仏
祖ハ、大師の道を參学したきり、仏向上を体得するなり。

夫知有仏向上ノ事、我門ノ師學モニ方ニ些子語話ノ分アルベシト
也。

まさにしるべし、仏向上ノ事ハ、因ニモアラズ、果ニモ非ス、シカ
レモ、語話ノ時ノ不問ノ道理ヲ体得し、參得する事あるなり。仏
向上ニいたらざれば、仏向上を体得する事なし。語話ニアラザ
レバ仏向上ヲ体得セズ。

夫、仏向上といふハ、仏ヨリ猶向上ニ事ありといふニあらず。

上下ノ上ニハアラズ。唯ダ仏向上ニ一段ノ事ある事を体得して、
衲僧門下、方ニ語話する分アリト_ニ。教者ノ持業尺ノ心、タト
ヘバ、紙ミ袋医ガゴトシ。此向上ノ事ハ、顯ルニアラズ、隠ル、

此語話トハ、ナニノコソ。別ニ密語・真語・實語・呉(異)語
アルベカラズ。人ニ逢時、茶話・飯談、全無別語、如是事を体
得ス、是語話現成ノ時節ト云フ、仏向上ノ事ニ。此ノ現成ノ時、
闇黎不聞ナリ。シカシナガラ、是隱頭・与奪ノ致ス處ニアラズ。
サテ、闇黎、ナントシテ不聞ナルヤ。不聞といふハ、仏向上
ノ事、自ラ不聞ナリ。已ニ語話ノ時、闇黎不聞ナリ。是以可レ
知、語話、ソレ聞ト不聞トニ染汚セザル故、聞・不聞ニアヅカ
ラザルニ。此時、不聞裡ニ闇黎藏身シ、語話裡ニ藏身す。しか
あるとも、逢人・不逢人、怎麼・不怎麼なる事ある。同途不
圓轍、芦花雪月似不同事あるのみ。しかも闇黎一人ノミニ非ス。
尽大地ノ人、語話ノ時、不聞なり。是仏向上ノ事也。語話ノ
時、ナントシテカ不_レ聞、可_レ聞語話アリヤ。是ハ、不聞_ガ真聞
ジヤ、ナド云フマギラカシコニハアラザルナリ。

語話ノ時不_レ聞、不語話ノ時即聞、ナントシテカ怎麼ナルト參学
すべきなり、是公案ノ參究なり。人々各々不聞裡ニ藏身し、語
話裡ニ藏身すといへども、逢レ人不_レ逢、怎麼ト不怎麼トアル_ト、
參究すべし。

高祖ノ曰、語話ノ時、闇黎不聞トアル。此不聞ナラクノ宗旨ハ、
舌骨ニ碍ラレ、耳裡ニ碍ラレ、眼睛に照穿セラレテ不聞ナルゾ。
ステ身心ニ塞却セラレテ不聞_ニ。仏向上ノ事ハ、根境所對ノ

法ニ非ズ。然故ニ不聞ナリ。此不聞が語話ヲ真聞スルジヤ、ナドト是ラヲ拈^{ハシメテ}、さらに、不聞が語話即聞ナリ、トスベカラズ。不聞即語話ニハアラズ、你チ但語話ノ時不聞ナルノミ。

高祖道ノ語話時闇黎不聞ハ、語話ノ道頭道尾、始終^{ヨハリ}共ニたとヘ藤倚^ニ樹ガコトクナリモ、語話纏^ニ語話^ニなるべし。是語話ニ罣碍セラル。罣碍即無罣碍ナリ。然モ你不聞^ク。僧曰、和尚還聞否。いはゆる和尚を挙して聞語話と擬するにあらず。聞を挙すも、更ニ和尚ニアラズ、語話ニアラザルガ故ニ、トアルハ、脱簡アルカ。畧文故カ不易見。故ニ辨解ノ曰、コ、ニ、和尚還聞否ト。いはゆるハ、和尚ヲ呼ビ挙^ク和尚聞語話ナリヤ、ト擬スルニハアラズ。今マ聞^ク挙レモ、此聞^クハ、更ニ和尚ノ聞^クニハアラズ。イカントナレバ、今は何事モ語話スルニハアラザル故ニ。しかれども、此僧ノ擬議し思ヒハカル所ハ、一切ノ語話ノ時ニ即聞スルヲ參学すべしや、いなや、と和尚ヲ呼出ノ咨參スルナリ。然バ、和尚還聞^ク否、ト点^ク見ルベシ。此僧ノ意ハ、たとヘバ日用ノ語話即仏向上ノ語話ナリヤ、と聞取せんと擬シ、還聞シヤ、トハ、日用語話ノ上ヲ、還聞クナリトヤせんと、聞取せんと擬^キスル^ク。要ラ以テ云バ、日用ノ語話ヲ即仏向上ノ語話トシ、其ノ語話ヲ還聞時^ヲ向上ノ語話ヲ還聞トイタサンヤ、否ヤト云ト^ク。故、還聞^ク否ノ点ニアラザレバ、キコヘヌゾ。如是ニ見ル所ハ聞取せん、聞取せんノニツノ聞ノ字ヲ、問ノ字ニ改メ見ルベシ。師ニ問取せんと擬するのギ^ク。しかも上ノごとく、

問取すといへども、此処ハ、你ガ舌頭ニアラズ。洞山高祖道ノ待^チ我不語話時^一即聞^ラ、アキラカニ參究すべし。いはゆる正当語話の時、更ニ即聞あらず、即聞現成ハ不語話ノ時なるべし。語話ノ時、為什麼不聞^{カル}、不語話時為什麼即聞^{スヤ}。是公案參究ノ様子也。いたづらに不語話ノ時をさしおきて不語語^(ママ)（話力）時をまつにハあらざるなり、とハ、不語話ノ時をさし置てとある不語話ノ不ノ字、衍字ナラン。いたづらに語話ノ時、不語話ノ即聞アルヲさし置て、別ニ不語話ノ時を待ニハあらざるなり。語話ノ時、不語話ノ即聞あるべし。即聞の時、語話を傍観として除ルニ非ズ。即聞ノ時ハ、語話ハ真ケ傍観なる故ニ、即聞ノ時、語話、外へさりて那裡ニ存取せるにあらず、不取不捨なり。語話ノ時、不語話ノ即聞あるべし。即聞の時、語話を傍観として此書ニ霹靂ノ字、徃ニ有之。皆動用シ、響キ聞ユルノギ^ク。しかあれば即チ、たとい闇黎にても我にても、語話ノ時ハ不聞ナリ。たとい我にても闇黎にても、不語話時即聞なるハ、是方ニ有ニ些子語話分^ニなり、是仏向上事也。たとヘバ、語話時即聞を体得するなりトアル。是も、不語話時即聞を体得するなり、とありてよし。不ノ字、脱スル^ク。是故ニ、待^チ我不語話時^ヲ即聞なり、と下ニ被仰タナリ。

しかありといへども、仏向上ノ事ハ、七仏已前の事ニ非ズ、七仏向上ノ事也。前ニ辨ズルガ如シ。

高祖悟本大師示衆云、須知有仏向上人、有僧問、如何是仏向

上人、大師云、非仏。

雲門云、名不得状不得、所以言^レ非、保福云、仏非、法眼云、方便呼為仏。

おほよそ仏祖の向上に仏祖なるハ、高祖洞山なり。其故ハ、餘外の仏面祖面雖^レ多、いまだ仏向上ノ道ハ、夢也未見在なり。

徳山・臨濟等ニハ為説すとも、承当すべからず、巖頭・雪峰等ハ粉^ニ碎^ル其身、喫拳すべからず。高祖道の体得仏向上事、方有些^ニ子語話分^ニ及須知有仏向上人等ハ、一二三四五の三阿僧祇百^{ヒヤク}大劫の修證のミにてハ、證究すべからず。應有^{アル}玄路の參學者^{其分^上}此章雖^ニ古仏示誨^ト、又是癡人面前多無用^{戻中}燈然成^レ戻可^レ惜許^ト、恐後人添加與^{カ^マ}(歟カ)。長^ニ洞濟両家瞎禿^ト無明^一者乎、我^{ヘニ}傷之而已矣。

須知有仏向上人、いはゆるハ弄精魂ノ活計なり。弄精魂ト此書ニ徃タルハ、師家為人ノ作畧^ヲ被仰タ^ニ。向上宗乘中^ニ於テハ、人ノ為メニスベキ事ハアラザレバ^ニ。雖然古仏を挙し、拳頭を挙起してしるべし。已ニ恁麼見得する如キハ、有仏向上人をしり、無仏向上人をしる。意ハ、此処ハ洞山古仏ノ垂示^ヲ拳揚^シ、まゝ自己ノ拳頭^ヲ挙起してしるべき処^ニ。すでニ如此ノ道理を見得する底ノ如キハ、仏向上ノ人アル^ト、仏向上ノ人無キ^トヲしる。今、師解ノ示衆ハ、仏向上ノ人となるべし、とニハアラズ、仏向上ノ人と相見すべし、とともにあらず。たゞ且仏向上人ありとしるべしとなり。人^々仏向上

ノ人なる事をしけと。此語、解シ誤ルベカラズ。辨曰、仏向上ノ人なる人ニなるべし、とにあらぬ。自専として仏向上ノ人なりといふノギゾ。然レバ本文ノ仏向上ノ人ありとしるべしとなり、とあるを、仏向上人なりとしるべしとなりと、あ字を、なの字ニせよ。

この関板子を使得する如キハ、マサニ有仏向上人を不知し、無仏向上ノ人を不知するなり。是も語句不易見。辨曰、有仏向上人、無仏向上人を知る、不知^レとあるを、上カラ下^ヘツケテ有仏・無仏ト云心ニハアラズ。知^レ有^フ仏向上人、知^レ無^フ仏向上人ト云ギナル故ニ、下ヨリカヘリヨム心ニ可^レ見。勿論、読ム時ハ、有仏向上人、無仏向上人トヨムベシ。下ノ不知ノ文句モ、同意ニ見ヨ。惣^テ元古仏ハ、教家ノ釈文ヲヨムゴトクツ^ミケテ棒ヨミニヨミ玉フゾ。然バ、洞山古仏ハ、意旨ヲ見得するが如キハ、向上ノ人ノ有無ヲ知ル、其上ニテ此道理ヲ使用シ得ル時ノ如キハ、向上ノ人ノ有無ヲ知ルヲ要セザル^ニ。コ^トニテモ、不知^レ知云^ヲ不知するなりと棒ヨミニ書キ玉フ。是、教家ノ釈文ヨミナリ。その仏向上人、是非^レ仏也トハ、上ニ向上人ノ有無^ヲ云。其ノ向上ノ人ハ、非^レ仏ナリ、いかならんか非^レ仏と你^ガ疑^キ着^セられん時、思量功夫すべし。仏已前ナル故ニ非^レ仏ト云ニアラズ、仏ヨリ後ナル故ニ非^レ仏ト云ニアラズ、仏ヲ超過^シ上ニアル故ニ非^レ仏ト云ニアラズ、但ひとへに仏向上なるゆへに非^レ仏なり。是、教者ノ持業尺、タトヘバ紙ミ袋ト云ンガゴトシ。前ノ仏向上ノ注ニ云トヲリ^ニ。

心ハ、仏地ニ在テ、然モ無所住ナルヲ云ニ。故ニ、下ニノ玉ハク、其非仏ト云ハ、脱落ノ仏面目なる故ニ脱落ノ仏身心ナル故ニいふと也。

東京淨因枯木禪師詞義成示衆云、知有仏祖向上事、方有説話分、諸禪德且道、那ケ是仏祖向上事、有ニケ人家兒子、六根不具、七識不全、是大闡提人、無仏種性、逢仏殺仏、逢祖殺祖、天堂ニモ收不得、地獄ニモ攝、無レ門、大衆還識此人麼、良久

曰、對面不仙陀、睡多饒寐語。

いはゆる六根不具といふハ、眼睛被人換却木槐子了也なり、鼻孔被人換却竹筒了也、觸餽被人借作尿杪了也、作麼生是換却の道理。是故ニ六根不具なり。換却ノ処、參學ノ要旨也。不具六根なる故ニ、炉鞴裡を透過して金仏となれり、大海裡ヲ透過して泥仏となれり、火焰裡を透過して木仏となれり。此透過ノ二字、參學の眼目也、金・泥・木ノ三仏、為什麼爐鞴・大海・火焰ノ三處ヲ透過して、依然として金・泥・木ノ三仏ナルヤ。上ノ六根不具ノ注解を以見ルベシ。円悟ノ所謂、泥仏若渡水則爛却了也。金仏若渡、爐中ニ則鎔却シ了也、木仏若渡火便燒却了也。有二什麼難會、且三處ヲ透過、渡過して方ニ始可得、這裡有什麼難會ノ語、為ニ諸人一点眼藥也。

七識不全といふハ、破木杓也。都テ功勲邊ノ事ニ非ズ。殺仏すといへども逢仏す、逢仏するゆヘニ殺仏すトハ、尋常破落戸ノ禿子、叢林ノ口癖チセニ殺仏殺祖ト云。然モ不レ逢レ仏、不レ逢レ祖、イ

カンゾ殺スコラ得ン。是を、禪者ノ野鉄炮ト云。故ニ、逢仏故ニ殺仏す、ヒノ玉フゾ。殺仏殺祖底ノ人ナル故ニ、況ヤ、天堂ニモ地獄ニモ收不得、攝不得ナルゾ。此処ニ到テ、對面すれば破顔す、といへども、仙陀ノ客ナシ。睡多メ寐語するのみ。しるべし、此道理ハ、拳山匝地兩知己アラバ、玉石ノ全身百雜碎しても当リ難カルベシ。玉石ノ全身上トイふハ、人々処愛ノ身ヲ云ンタメゾ。

雲居弘覺大師參洞山、山問、闍梨名什麼、雲居曰、道膺、高祖又問、向上更道、雲居曰、向上道即不名道膺、洞山曰、與吾在雲岩時祇對無冥也。

いま師資ノ道取する処、審細ニすべし。向上不レ名ニ道膺ハ、道膺ノ向上ニ道膺と名クルナシ。サキツカタノ道膺ニ、向上不名道膺アルコラ參學すべし。向上不名道膺ノ道理現成するより已來、真ケノ道膺なり。心ハ、不名是本名也。

しかれども、向上ニも道膺なるべしと勿レ云トイヘモ、たとい高祖道取ノ向上更ニ道ヘヲきかん時、領リコウ話ヲ呈するに、向上更名道膺と道着すとも、即向上ノ道取ナルベシ。ナニトシテ恁麼云フ。いはく、道膺。忽ニ頂チイ頸ネックニ跳入して本名不名裡ニ藏身する故ニ。然モ如是藏身すといへども、猶露スラブ影也。ナントシテ恁麼ナル。道膺ハ且置、三世諸仏、歷代祖師、大地ノ衆生、尽是幻化影像ノ事ナラザルナシ。仏向上ノ人モ、亦復尔也。

曹山本寂禪師參高祖洞山、山問、闍梨名什麼、曹山云、本

寂、高祖云、向上更道、曹山云、不道、高祖云、為甚麼不道、曹山云、不名本寂、高祖深器之。

いはく、向上ニ道取ナキニアラズ、向上ノ道取ハ、是不道取ニ。為甚麼不道、いはゆる不名本寂なり。しかあれば、向上の道ハ不道ニ、不道の道ハ不名なり、不名の本寂ハ向上の道なり。この故ニ、本寂不名也。不道の道ハ不名ニトアルヲ、吳本ニ、向上の不道ハ不名ナリトアル、不可也。しかあれば、非本寂あり、脱落の本寂アリト。

前ノ非仏ノ下ノ注辨ニ同ジ。

盤山ノ章、不及辨解トイヘども、向上ノ一路ト云コヲ、叢林、錯解して、別ニ向上ノ路アリト云フ。楞^ム（嚴）^ム、十方婆伽梵、一路炎（涅槃）門ト云モ、別路アリト解ス。人ニ向上不伝ノ一路、生仏一路ヲ十方婆伽梵ノ一路ニ云。透得セザル者ノハ、別処ニ路アリト思フゾ。教外別傳モ、是人ニ不傳ノ別傳ナルゾ。傳ハ、不傳ヲ傳ト云ゾ。不可錯解。

智門山光祚禪師、因僧問、如何是仏向上事、師曰、拄杖頭上挑日月、いはく、拄杖ノ日月ニ罣碍セラル、是仏向上ノ事なりと。

人ニ一ヶ、拄杖子ヲ着得スルキハ、拄杖頭上ニ高ク日月ヲ挑テ八面玲瓏ト云モ、早ク是拄杖子、日月ニ罣碍セラル、是罣碍ノ字、徃ニ前ニアツテ辨ゼリ。然モ此挑日月拄杖子ヲ參学する時、尽乾坤、人ニ是即仏向上ノ事なり。日月の光影ヲカルニハ

アラザル故ニ、日月これ拄杖ト云ニアラズ。拄杖頭上とハ、全用ノ拄杖、東西南北、途路ニ力ヲ得テ自在ナルノナレモ、不肯這裡住^{ニトマラ}。若這裡ニ住マルキハ、第二頭辺ニ落在スル。仏向上ノ事ニアラズ。智門ノ答、元古仏ノ意旨ニ叶ヌト見ヘタゾ。拄杖子頭上挑日月ヲハ、無目山人ノ語ニモアルカト覺ヘタ。從容彖ノ中ニ出タカ。

石頭無際大師、天皇道悟問、如何是仏法大意、師曰、不得不知、道悟曰、向上更有轉處也無、師云、長空不碍白雲飛。

いはく、石頭ハ曹溪ノ二世なり、天皇道悟和尚ハ薬山ノ師オ（弟）ニ。或時仏法ノ大意を問、此問ハ、初心晚學の所堪のミニあらざるなり。大意をきかバ、大意を會取しつべき時節にいふなり。所堪ノ下ニ、のミノ字ヲ入レテ見ヨ。

石頭曰、不得不知。しるべし、仏法ハ初一念にも大意あり、究竟位ニも大意あり。其大意ハ、不得なり。發心・修行・取證ハナキニあらず、不得なり。其大意ハ、不知なり。修證ハ無にあらず、修證ハ有にあらず、不知なり、不得なり、とある。此不得なりノ四字、衍ナラン。イカンナレバ、下ノ文ニいはく、又其ノ大意ハ、不得不知なり、聖諦・修證なきあらず、不得不知なり。聖諦・修證アルニアラズ、不得不知なり、とあれば、前ハ不得ト不知トヲ切テ断リ、末ハ公案ノ文ノトヲリニ、不得不知ヲツバケテノ玉フニ、心アルベシ。上ニハ、その大意ハ不得

なり。發心・修行・取證ハナキニアラズ、不得なり。その大意ハ不知なり。修證ハ無ニアラズ、有ニアラズ、不知なりとアリテ、次ニ又其ノ大意ハ不得不知なり、聖諦・修證なきにアラズ、あるにあらず、不得なり、と差別ノ解シ玉フ。其上ヘ、末ニハ聖諦ノ言葉入ルナレバ、前トハ同異アル。

辨曰、前ニ、此問ハ初心・晚学ノ所堪ノミニアラズ、大意ヲキカバ大意ヲ會取しつべき時節にいふこと惣云。叢林ニテ仏法ノ大意ヲ問フハ、初心晚学ノ所堪ナリトノミ思ヘル、故ニ如是断リ玉フ。然バ、初心晚学ノ所堪ノミニアラザルナリ、トノミノ言葉ヲ入テ能ク聞ルゾ。林才ノ、睦州ノ指南ニテ問レタ時ハ、初心ノ所問ナリ。今道吾ノ問ハ、大意ヲキカバ、會取シツベキ時節ノ問話ナリト云心ニ断リ玉フ故、下ノ、不得不知ノ語ヲ分辨ノ断り玉フト見ヘタ。其旨ハ、仏法ノ大意ト云ハナンゾ。心仏及衆生、是三無差別ノ大意ノフ。然故古仏ノ玉ハク、仏法ハ初一念にも大意アリ、究竟位ニも大意アリ。最初・究竟、無二ノ大意ナリ。

サテ、ソノ大意ハ、初心・晚学底ハ、多ハ不得なり。シカレモ、發心し修行して取證ノ道理ナキニアラズ。先ヅハ不得ナリ。故ソノ大意ハ不知ナリ、修證も有無ノ差別ノ論ズル處ニアラズ、不知ナリト。上ニ辨ズルゴトク、コヽニ、不得ノ字アルハ衍ナラン。

サテ次ニハ、又ソノ大意ハト、又ノ字ヲ入テ分チ玉フ。今、雲居

ノ問話ノソノ大意ハ、不レ得レ不レ知ナリトヨンデ可ニ。伝灯十四ニ、不レ得不レ知ト矣ズ、不可ニ。第一義ニ聖諦ノ修證、有無ニアラズ、不染汚ナルヲ不レ得レ不レ知ナリ。南岳ノ、曹溪ニ相見ノ様子ニ。這ケノ大意、人々不レ得レ不レ知、是道悟底ノ事也。

道悟いはく、向上更有轉處也無。いはゆる於茲、轉處もし現成することあらば、仏向上事現成す。轉處といふハ方便ニ、方便といふハ諸仏なり、諸祖なりトハ、這裡ニ坐在セヌ方便ハ、諸仏諸祖分上ニして得ルヲ。此道理を道取するに、更有なるべシトハ、更ニ轉處方便アルベシト。たとい更有轉處とも、更ニ轉處ナキヲモラスベカラズ。有無ニ道取アルベキ処ゾト。然モ、此章句も、穩カナラザルヲアリ、脱文アルカ。

長空不碍白雲飛ハ、石頭ノ道取ナリ。長空更ニ長空を碍す、長空是長空飛を不碍也といへども、又更ニ白雲も自ラ白雲を不碍也。此下ニ、白雲これ白雪飛を不レ碍ナリトアルベキヲ、文、脱ノ白雲自白雲を不レ碍、白雪飛を不碍なり、とバカリアル。上ノ、長空更ニ長空を不レ碍なり、長空これ長空飛を不レ碍なり、とあると對語ナルコヲ見得せよ。

白雲更ニ長空飛を碍セズ、他ニ不碍なるハ、自ニも不碍なり。自他ハ、長空白雲を互ニ自他ト見ルベシ。長空ハ長空、白雲ハ白雲、面々各々ニ不碍ヲ存ズルニアラズ。長空・白雲、無自無他不碍ナルト。是故ニ不碍なり。是ハ、長空、白雲飛を不

碍性相を挙拈する。長空ハ性、白雲ハ相ニ。然モ、教述中ノ

性相ノ論ニハアラズ。只、長空・白雲ノ上ノ性相、体用ヲ擧シテ

云ノミ。

ばざらん、とあるも、向上ノ関帳子トアリテ可ナリ。

〈仏向上事〉 卷了

此ノ正当恁麼時、此參学眼を揚眉して仏來祖來、自來他來を
も相見すべし。コ、ニ仏法ノ大意、向上ノ參究アルナリ。然ビ、
問一答十ノ冷利的ニして得ル、問一も其人、答十モ其人。石
頭・道悟的ニして得べき処ナリ。

黄檗云、已下、不及辨注。然モ下ノ、いはゆる仏向上事といふ
ハ、仏ニいたりて、すゝ（み）てさらに仏を見るなり、衆生ノ
仏を見ニおなじきなりトアルハ、写誤ナリ。先以コヽノ、仏向
上ノ事トイフハ、トアルハ、最初ノ章ヲコヽニ追テ、ノ玉フナル
ゾ。仏向上ト云テ、仏ノ地位ヨリ尚又進ミ上ツテ、更ニ仏ヲ見ル
ト云ニハあらず。衆生ノ、仏を見ニおなじからず、仏向上事な
り。其旨ハ、前ノ、非仏ノ下ノ注ニ云、仏ヲ超ル故ニ非仏ニハア
ラズ。たゞひとへに仏向上なるゆへに非仏ト云ヲ以テ見ヨ。コヽ
モ、仏地ニ到テ尚又一頭地すゝミて仏をミルニあらず。衆生ノ、
仏ヲ向上ニ見ニおなじからず、となれば、前後咀嚼スルニ。
其上、此下ニ、

見仏、もし衆生ノ見仏ニひとしきハ見仏ニアラズ、見仏、もし
衆生ノ見仏ノことくなるハ見仏錯なり。いはんや仏向上事なら
んや、とアル。是以知ル、決メ写誤ニ。見仏、もし衆生ノ見仏
ノ如クナルハ、見仏スラ錯れり、況仏向上ノ事ニハ、没ニ交渉
也、黄檗ノ道ノ向上ノ事ハ、今ノ杜撰ノともがらの領覽によよ

（附記） 本書の翻刻に当つては、原本の撮影及び翻刻を御許
可頂いた陽松庵・故加藤良道老師、現董福本高芳老師に対し、
甚深なる謝意を表する。尚、写真収録は「続輯・正法眼藏蒐
書大成」第一巻を参照されたい。（編者）